

《総説》

暑熱障害のメカニズム：発汗の役割について

菅屋 潤壹

椋山女学園大学看護学部

要 旨

本総説では暑熱障害の発症における発汗の役割について概説する。熱けいれんは、強度の暑熱負荷の下で生じた多量の発汗により脱水が生じ、これが塩分を含まない水分だけの補給により補正されることにより発生する。熱疲労は、強度の暑熱負荷により生じた多量の発汗に由来する脱水が原因となった循環不全である。熱失神は、脱水に加え、血流の再配分にもとづいて血液が皮膚へ多量に貯留したことにより生じた脳虚血が原因となる。暑熱障害のうち最も重篤な熱射病は、熱による脳障害のため体温調節中枢の機能が障害され、これにより発汗が停止し、その結果生じた調節不能な高体温が関わった複雑な病態である。暑熱順化は、暑熱障害発症の予防に寄与する。なぜなら、繰り返しの暑熱曝露により完全な暑熱順化が成立すると、発汗機能が向上するからである。すなわち、暑熱障害の予防策としては、暑熱負荷時の脱水を抑制することと、暑熱負荷に先立ち暑熱順化を成立させておくことが重要である。

キーワード：暑熱障害, 発汗, 熱中症